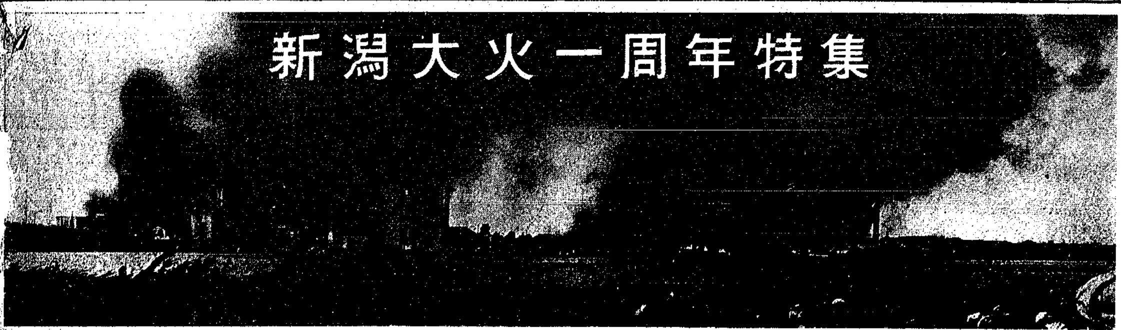
新潟市政だより

発行所 新潟市役所
新潟市西堀通六番町866ノ3
電話代表(2)2111番
新潟市長
発行人 村田三郎
新潟市湊町通二ノ丁2609
編集人 佐野武一
新潟市沼垂1962
印刷所 文明堂印刷所
新潟市西堀前通4
電話(2)8128番
毎月一回5日発行
定価 一部3円

明るいまちは防火から

新潟大火一周年特集



大火一周年を迎えて

新潟市長 村田三郎

巡り来る十月一日、昨年の当日未明、しかも三十数米の台風下に突如として起つたあの劫火は、延々実に数時間に亘つたのであります。焼土に立つた当時の惨状をしのびますと、ここに一周年の日を迎えるにあたり誠にうたた感慨無量なものがございます。

その後これが復興につきましては、幾多のう余曲折はありましたが、やがて明るい近代都市大新潟市建設の復興も極めて順調で、過去数度の経験によりましても防火都市の建設が強く要望され、現在大小となく、個人たると共同建築たるとを問わず、防火建築による本日の様子をみるにいたりましたことは、一つは燃り上る逞しい市民の復興意欲と、関係官庁並びに各位の絶大な御協力と御援助御高配によるものと深く感謝申し上げるものであります。

戦災にもあわなかつた美しい街を誇つてはいましたが、この悲運に会おうとは誰が考えたことでしょう。一度、大火の報がつたわるや県内は申すに及ばず、全国各地は勿論のこと、広く外国からも温い御同情をよせられたことは生涯忘れることのできない人の情をしみじみと感じたものであります。これにこたえても共々大新潟市の建設に努力を傾けたいと深く覚悟するものであります。

目抜きの中心街でその痛手も強かつたのですが、それぞれの建築工事も現在六分通りの進捗ぶりを思うても完成後は全く文化的近代的な姿にその有様は面目一新することでしょう。

今後これら復興につきましても都市計画の線に沿い、これが建設を促進し消防力の強化等市政に十分力をいたしたいと存じますので、何卒皆々様の御協力をおねがい申し上げます。

一周年を迎えるにあたりまして、十月一日を契機にいささか記念行事を計画いたしました。ここに一周年を迎え新潟市鎮火安泰を祈念いたしまして御あいさつといたします。

〝忘れまい〟十月一日

二度とくり返すな あの日の悪夢

新潟市民として忘れることのできない昨年十月一日の大火は、まさに台風二十二号がもたらした最大の悲惨事でありました。

あれから早くも一年。今ここにあの悪夢のような大火の当時を回顧して二度とあの悲惨事をくり返さないよう、火事を絶対に出さないようにお互に火災予防の万全を期したいものであります。

〝思えば昭和三十年十月一日〟

市内の中心部目抜きの繁華街が一夜にして廃きよと化しました。東京都内の交通量に匹敵するといわれた古町十字路に立つと、眼の前に突立つ大和、小林両デパートは既にがらんどう。屋上にあつたネオン塔の残がいが早暁の惨事を物語つています。市役所の庁舎もあと形もなく消え失せてしまい白い美しさで親しまれていた郵便局の四階建耐火建築も見る影もない惨状を呈しています。戦災を免かれ大火の体験を知らない市民にとつては、この台風下に生じたごう火はあまりにも大きいショックであつたことは事実であります。柳と堀で新潟情緒豊かな東堀や西堀のしだれ柳も猛火にあつてすつかり丸坊主になつています。又一面に焼野原と化した中心街の焼跡は、県庁前の火元まで見通しがきく広大さであります。まだ余燼がくすぶつておるので昨夜までのあの懐しい街の光景が夢のように思われます。

恐怖におののく八時間前をふりかえつて見ますと、出火した午前二時五十分頃は、佐渡沖合を通過する台風二十二号が瞬間風速三三、六米を記録しており、無気味なうなりを立てて市民は締切つた家の中で無事通過することを祈つていたのです。ところが折も折、場所も場所、最も風上にある県庁分館の教育庁から火の手があがり、一一九番の火災電話により消防本部に通報され、特別編成による消防車十三台が直ちに出動しました。サイレンの音が集中して街に流れると同時に、市民が表に飛び出したのですが、既に火焔は火元教育庁の屋根を吹き破り、隣接のアメリカ文化センターの建物に延焼、烈風に煽られ更に医学町一、旭町一の民家に猛烈な火の粉と火流を吹きつけていました。

局限防止と風下への延焼防止に必死の消防活動も功を奏さず、飛火によりつぎつぎに突破され、火面は益々拡大し、東中通より寺裏通、西堀、古町、東堀と風の方向に延び、遂に中心街は猛火に包まれ眼も口も開けられぬ状態となり、被災者の搬出する家財道具で街は雑踏し混乱を極め、阿鼻叫喚の巷と化して一層消防活動を阻害したのであります。このようにして新潟市の大火は稀有の災害となりました。明治四十一年春秋二回の大火以来防災には特に先人たちが配慮したといわれますが、その後これといつた被災も受けず、まず安泰の生活を持ち続けてきたのですが、一夜にして新潟銀座の繁華街はむなしく消え去つてしまいました。

再現の悲惨事を二度と繰り返さないよう私どもは深く心しなければならないと思います。

大火詳報

○出火場所
新潟市医学町一番町三六ノ一二
新潟県教育庁(県庁第三分館)
木造モルタル張瓦葺二階建四四三、三四坪

○出火及び鎮火の日時
イ 出火 昭和三十年十月一日午前二時五十分頃(この推定は実際に於ては更にその十数分前に出火していたものと認められる)
ロ 鎮火 十月一日午前十時五十分(延焼の危険がない程度に鎮圧した時刻)
ハ 残火鎮 十月一日午後七時

○火災覚知時刻
午前三時四分火災専用電話一一九番により通報された。

○焼失坪数
イ 焼失面積 七八、〇〇〇坪
ロ 焼失延坪数 六四、九八四坪
ハ 焼失建坪数 四〇、八三九坪
ニ 焼失棟数八九二棟
ホ 焼失戸数九七二戸

○罹災世帯並びに人員
イ 罹災世帯 一、一九三世帯
ロ 罹災人員 五、九〇一人

○損害見積額
イ 建物 二三億三、二六七万一、〇〇〇円
ロ 家具什器 七億六、〇四三万七、一〇〇円
ハ 商品類 一七億七、〇四三万〇〇〇円
ニ 機械設備等 七億五、六四四万三、〇〇〇円
ホ その他 一五億六、六三五万八、一〇〇円
合計 六九億八、七〇六万九、四〇〇円

○死傷者
イ 死者 なし行方不明一名
ロ 消防職員の負傷 全治まで一週間以上三週間以内一一人 一週間以内三七人 計四八人
ハ 消防団員 全治まで五日以内の軽傷者九人
ニ 応援消防隊員 軽傷一〇人
ホ 自衛隊員 重傷二人
ヘ 一般人 重傷三五人、軽傷一四〇人

○出火原因
漏電による。

(市消防本部調)

戦後の大火

終戦後わが国で発生した火災で焼失戸数三〇〇戸以上のものを調べて見ますと次のとおりであります。(不足分は新聞発表による)

出火年月日	火災発生地	焼失戸数
昭和二一、五、二〇	福島県田島町	六四八
〃 六、八	新潟県村松町	一、三三七
〃 一一、一三	青森県五所河原町	五八七
二二、四、二〇	長野県飯田市	四、〇一〇
〃 四、一九	茨城県那珂湊町	一、一三四
〃 一〇、七	山口県下関市	四一一
〃 一二、九	岩手県山田町	五二〇
二三、六、二一	北海道[illegible]別	三一七
二四、二、二〇	秋田県能代市	一、七一六
二四、二、二〇	兵庫県明石市	四〇八
〃 五、〇	北海道古平町	五二一
〃 五、一三	山梨県谷村町	三一三
〃 五、三〇	北海道夕張市	三三五
二五、四、一三	静岡県熱海市	九七九
〃 五、一三	長野県上松町	六六八
〃 六、一	秋田県鷹巣町	六九九
二六、一一、二八	神奈川県小田原市	三三五
〃 一二、一六	三重県松阪市	七一八
二七、四、一七	鳥取県鳥取市	五、四八〇
二九、九、二六	北海道岩内町	三、三〇〇
三〇、一〇、一	新潟県新潟市	九七二
〃 一二、三	奄美大島名瀬市	一、九五〇
三一、三、二〇	秋田県能代市	四二〇
〃 四、一七	福島県[illegible]楽町	五六〇
〃 四、二三	福井県芦原町	四七〇
〃 五、七	北海道下川町	三四〇
〃 八、一八	秋田県大館市	一、三〇〇
〃 九、一〇	富山県魚津市	一、七五〇

写真説明
(右)猛火に包まれた市役所
(中)廃墟と化した古町七番町附近
(左)余燼くすぶる古町繁華街の惨状
(下)東中通一帯を猛火に包む
(○印は火元県教育庁 ×印は文化センター)